

せら定期巡回・随時対応型訪問介護看護 第1回介護・医療連携推進会議議事録

日時：2023年4月20日(木)10:30~11:30

場所：倉田ビル101

参加者： 11名 家族1名 ケアマネ2名 包括3名 職員5名

1. 管理者挨拶 せら定期巡回・随時対応型訪問介護看護管理者 阿部智子より挨拶

2.参加者紹介 訪問看護ステーションけせら 管理者佐藤美雪より参加者紹介

3.事業報告

1)運営状況報告 (資料1)

2)事業者評価 (資料2)

事業所評価票配布

利用者 現在利用者 10名(回収 5名)

利用終了者 3名(回収 2名)

居宅支援事業所 現在利用中介護支援専門員 4名

(内マネ3名 外マネ1名 回収内マネ2名 外マネ1名)

3)自己評価票 看護師11名配布 ヘルパー9名配布

(回収看護師 9名 ヘルパー7名)

自己評価 厚労省からの定期巡回随時訪問シートを活用した。(資料3)

4.事例紹介

退院後より定期巡回を利用されているA・Y様の事例紹介。

5.皆様からの要望・意見交換

・ご家族より

定期巡回を入れることは自分達にとっては選択肢が増えてありがたかった。家族の生活もあるため、介護とのバランスをとりながら無理なく生活できるようになった。それによって介護者の精神面も安定している。良い循環になっている。災害時に誰も対応できないことを避けたいので家族がそれぞれ週に1回ずつは実施している。初めは緊急ボタンをどういう時に押したらいいのか分からなかった。また、サービスの使い方も分からなかったが、計画を話し合っただけで積み上げていくことができている。今は自分も家族も必要なサービス。誰かの手を借りることも大事だが、サービスを知らなかったらできない 提案してもらい助かっている。親の自宅に居たい思いも分る。孤独にならないでいられる。相談でき頼りになりサービスだと思っている。

(ケアマネより)定期巡回に変更して変わったところは？

本人の状態も変わった。医療行為が増えた。胃瘻になったことで介護量は増えたが家族の関わる時間も増えて穏やかな時間が増えている。家族として余裕ができ、退院後の生活の不安があったが以前より安心できている。タイミングよくサービスが回ったと思う。土曜・日曜

のサービスをどうするかという問題があったが、今回の定期巡回ではうまくはまったと言
う感じあり。家族のかかわりも高くなった。

・包括職員より

どういう利用者を紹介したらいいかわからない。どのくらいサービスを入れたらいいのか
分からない困難ケースで新規の方だと紹介しやすいかと思う。生活を支えていくサービス
には小規模多機能もあるが、違いを説明するのが難しい。サービスによる効果を説明でき
ると良いと思う。

特養入所していたが、胃瘻になってしまい特養に戻れなくなってしまった。延命希望しない
方で自宅退院になる予定。そういう方も対象になるのか。

・ケアマネより

退院時から定期巡回で入っている利用者、生活の見えない中で全体を見てプランを組ん
でもらっている。退院時は 2 週間特別訪問看護指示書で看護師が入り、ヘルパーも入っ
ている。

以上